

(評価資料2)

研 究 課 題	2 麻痺性貝毒に関する機器分析法の研究 (29-31)
研究目的・背景	LC-MS/MS 等を用いた麻痺性貝毒の機器分析法を開発し、食中毒に対する危機管理体制の強化を図ると共に、安全な食品（ホタテ貝）の安定的供給を行うための分析技術を確立しようとするもの。
研究計画の概要	平成29年度：プランクトンとホタテガイの毒成分分析法の検討（前処理方法と経時変化に関する研究等） 平成30年度：機器分析で算出した毒当量の総和とマウス毒性試験値との比較（分析法検討、妥当性確認等） 平成31年度：実務的応用（体内変化、加熱調理による毒性変化の研究等）
評 価 結 果	○総合評価 A（5人）・B（1人）・C（0人） ○総合意見 ・麻痺性貝毒の分析法を開発することは岩手県の養殖業の安定的な発展および食の安全という観点から重要な研究である。 ・動物試験代替法が望まれている中、微量で標品不要で検出可能であるニーズは高い。岩手県の水産資源の安全管理・保護のため重要な課題と思われる。 ・岩手県のホタテ養殖業等にとって意義のある研究であり、是非推進すべきである。 ・貝毒の迅速な分析ができることは大きな前進であるが、根本的な対策である解毒研究に進んでいただきたい。 ・麻痺性貝毒の分析研究は食中毒に対する危機管理体制の強化において緊急かつ重要であり、総合評価はA評価と考える。 ・貝毒の迅速かつ的確な検査は、消費者の食の安全・安心のみならず、生産者の出荷停止とも関わる喫緊の課題である。所轄の異なる県水産技術センターとの連携を密に取られ、研究の速やかな推進を期待したい。
センターの対応方針	① 研究計画のとおり実施                      Ⅱ 一部見直しの上実施 Ⅲ 今後検討    Ⅳ 実施しない  麻痺性貝毒の迅速な分析法を確立することで、食の安全安心と危機管理体制を確保するとともに、岩手県の水産振興にも貢献していきたい。 なお、研究推進に当たっては、岩手県水産技術センターと十分に連携を図っていきたい。